

町田市立図書館協議会
第13期第6回協議会議事録

日時：2010年3月23日（火）

午前9時30分～正午

場所：町田市立中央図書館 6F ホール

第13期第6回町田市立図書館協議会

2010年3月23日(火)

(出席者)

(委員)

松尾 昇治 委員長	水越 規容子 副委員長	山口好司 委員
勘解由小路 承子委員	久保 礼子 委員	山口 洋 委員
沢里 冬子 委員	白柳 美智子 委員	石井 清文 委員
市川 美奈 委員		

(事務局職員)

守谷図書館長	近藤主幹兼奉仕係長	由良庶務係主査
佐藤庶務係主査		

(傍聴者)

0名

(内容)

- 1) 館長報告
- 2) 第13期町田市立図書館協議会諮問事項について

(配布資料)

- ・館長報告
- ・第二次町田市子ども読書活動推進計画
- ・討議の流れメモ(松尾委員長作成)
- ・図書館情報システム更改のための臨時休館について
- ・公立図書館の指定者管理制度について(館長))
- ・市民センター返却本の統計と町田ターミナルパーキング割引状況
- ・知恵の樹
- ・風(発行 田井郁久雄)

(議事録)

松尾委員長：おはようございます。冒頭ですが、先月ご承認頂いた多摩地域の図書館協議会連合構想について、5月の市町村立図書館長協議会の中で、ご報告願います。多摩地域の図書館協議会の連合構想を小金井市の図書館協議会でも提案し、ご了承頂きました。

図書館長：おはようございます。2010年市議会定例会が開催中です。3月21日に市議市長選があり、入れ替わりがありました。市長は再選されました。3月議会のおもな案件は最後の2009年度の3月補正予算と新年度予算の審議、来月4

月には図書館の予算を示すことができると思います。今日は、文教社会常任委員会で質問があったものだけお答えします。

1つは、非常勤職員の報酬です。新年度は非常勤職員82人分、昨年より12人増えて、19,729,200円。これに関連して市議会議員から、「そういう人たちは皆司書資格を持っているのか」と質問されました。全員持っていると答えました。常勤職員と同じような仕事をしている職員を、それも10年以上仕事をしている人が30人程いるのですが、「そういう職員を非常勤のままで良いのか」と言う質問もありました。「専門性のある方々で、実態として10年も勤めている職員を1年契約の非常勤職員の扱いで良いのか」との質問が社民党の議員さんからありました。他の自治体図書館は、委託や指定者管理で運営しているところが増えていますが、町田市は非常勤嘱託員制度で、何とか直営で運営していくことがベターな選択だと回答しています。

もう1つは、図書資料配送委託料の8,316,000円です。図書館の図書資料の配送業務を2009年度までは直営でやっていましたが、これを新年度から委託にする経費です。それに関して議員さんから、移動図書館にかかる総経費の質問もありました。最後に、行政報告として「第二次町田市子ども読書活動推進計画」の策定について報告しました。これは3月18日の常任委員会ですが、一般質問が3月26日の午後にされる予定で、ある議員さんから「町田市における国民読書年についての取り組み」、2番目に「小中学校で読書科という科目を設けるべきである」という質問が出ています。1番目は、図書館で回答します。2番目の回答は、学校教育部です。併せて、今年は中央図書館20周年があるので、秋に色々なイベントを開催するという回答になると思います。答弁をつくりました。

町田市教育委員会が3月11日にありましたが、今回図書館、文学館併せて該当案件はありません。

「町田市図書館利用調査」の集計結果（2009年10月23（金）・25（日）・28（水）実施）ですが、全館を対象とした来館者への配布式の利用実態調査を行いました。これは東京都の雇用促進事業の予算で、200万程の経費がかかりました。業者の方から、成果物が届いています。単純集計とクロス集計、フリーコメントがわかります。これのダイジェスト版を作成中。今日、お配りしたのは、関心の高い所のみを抜き刷りにしたものです。簡単にご説明します。全館の集計で、「ほぼ毎日」という利用と「1週間に1度程度利用」、「2週間に1度程度利用」を、全館で合計すると76%になるので、図書館の利用者は、定期的に利用することがわかります。特にさるびあ図書館では「ほぼ毎日利用する」が14%で一番多い。

どういう人が利用しているか、専業主婦の利用が多いです。中央図書館は学生

も多いです。鶴川や木曾山崎図書館は、専業主婦の利用が37%あります。周りが団地なので、そういった方の利用者が多いと思います。「図書館の何のサービスをよく利用されますか」との問いでは、図書の貸出が一番多くて、視聴覚資料の貸出を希望しないという利用者が61%で、本を借りる利用者と視聴覚資料を借りる利用者はあまり重なっていないのではと想像します。レファレンスのサービスを受けたことのない利用者が57%。図書館のレファレンスサービスが定着していないことがわかります。フリーコメントの中で多かった意見は、開館時間閉館時間、座席数、視聴覚資料が少ない上に予約が出来ない等の問題でした。「図書館を利用した利点」については、仕事・生活・有意義な時間が過ごせる・面白い資料に出会えたという意見が多数ありました。問いの中に、「図書館に特定の本や調査目的を定めずに来館されることがありますか」を入れましたが、60%以上の利用者が目的なく来館する場面が多いことが調査でわかりました。以上、暮れに実施した利用者調査の概要として報告します。

次に、第二次子ども読書活動推進について報告いたします。石井校長や水越副委員長には、懇談会に参加して頂きました。ここで、一応まとまりましたので、担当の中央図書館奉仕係主査の渡部からご説明いたします。

渡部職員：具体的な内容ですが、第1章に子ども読書活動の意義と背景、第2章にこの活動計画の町田市における位置付け、第3章に「第一次」の成果と課題。その様な反省を踏まえて、第4章に基本理念・目標を定めました。第5章に市民と行政との協働。以上が説明に当たる部分で、次の第6章と第7章で、具体的な取組みについて述べています。実際の取組みは31あります。他市の基本計画に比べてかなり具体的に書きました。特に年度計画があり、5年間で何をやるか述べている自治体は少ないと思います。色々助言や協力を頂きながら計画をスタートさせたいと思います。この計画で、初めてスタートするのは14番の「町田市子ども読書マップの作成」、17番の「集中取組みの実施」（図書館と施設でお話会や本の貸出を頻繁に行う）、27番「新任教諭の図書館研修」、31番「子ども読書活動推進窓口の設置」（中央図書館の児童カウンターに置く予定）です。

山口好司委員：多数の教員が採用されている2年3年次の教諭にも研修が必要です。PRしてください。

勘解由小路委員：私も以前教員をしていたのですが、新任時にはとてもわからなかったことも経験を積んで初めてわかることもあると思いますので、新任の方だけでなく、10年次などの一定の経験を積んだ先生方対象でも実施していただきたい。

渡部職員：毎年、5月と8月に図書指導員と司書教諭の方の研修は行っています。

図書館長：5. その他について

- ・嘱託職員第二次選考で2月18日に15名採用しました。全員女性で平均年齢32.5歳、競争率13.5倍、図書館経験者の合格者は66%でした。
- ・団体利用者懇談会をさるびあ図書館で2月15日に実施。後日報告します。
- ・図書館情報システム更改が終わりました。2月22日から24日まで。今回の更改は、主としてソフトの部分でなくてハードの変更を行いました。また中央図書館にあったサーバーが撤去され、本庁のサーバーと同じところに移動になりました。端末機器は全部交換されました。ソフトの変更では、利用者がインターネットで貸出延長が可能となりました。また、予約資料の受取場所を図書館以外の場所に設定出来る機能の追加を行いました。
- ・市民センターにおける図書の返却状況は徐々に増えています。
- ・町田タウンパーキングセンターの駐車料金の割引利用状況について、2月は266件ありました。
- ・最後に、参考資料として日本図書館協会（HP）の「指定者管理制度の見解について」を配布。北海道立図書館が指定者管理になるのに対して、新たな見解を示したものです。

勘解由小路委員：利用結果と利用満足を踏まえて、検討して頂きたい。視聴覚資料は、利用頻度も関心も低いようですが、だから、力を入れなくていいというわけではないと思います。視聴覚資料に予約が出来ないのが、利用が伸びないし知られない原因だと思います。なお、予約ができないものと言えば、コミックも予約が出来ません。予約が出来ないということは、資料がそこに滞留し、他館の利用者が利用できないこととなります。1冊本のコミックの場合、所蔵館に行かないと利用出来ませんし、一般書と違い、書庫本で利用されてないと除籍されてしまう可能性もあります。たとえば、『I S』（六花チヨ）という、一般的にはなかなか理解されないインターセクシュアル（intersexual）の問題を扱った優れた作品で、都下でも貴重な作品もそのため除籍されてしまったようです。図書館の既成概念を変えなければいけないと思います。

図書館館長：中央図書館の5F視聴覚カウンターにいますと、予約したいとの声が多数聴かれます。物理的にカウンターが狭いので、それをどう解決するかが問題です。

松尾委員長：嘱託職員採用状況についてですが、新卒の方の採用がありましたか。

図書館長：2人ありました。応募では多数おりました。

松尾委員長：新卒の学生で、図書館に入りたいという希望を持っていても、実際叶う人は少ないので、成績にもよりますが、積極的に新卒の学生を採用していただくと良いと思います。

図書館長：他の自治体や派遣等で図書館勤務をしていた方は、試験の実技も大変上手で、経験者は即戦力があると思ってしまう。

勘解由小路委員：合格者の平均年齢は、32.5歳ということですが、最高年齢者は、
ですか。

図書館長：50歳です。

勘解由小路委員：50歳以上の方は採用しない方針があるのですか。

図書館長：そんなことはありません。

＜その後、松尾委員長から諮問事項である町田市立図書館の運営理念と目標のあり方について、提出された討議の流れメモを通じて説明がなされた。＞

松尾委員長：諮問の理由

1. 2003年1月の「サービス理念と目標」は、職員の検討でまとめたものである。
2. 市民や利用者の意見を十分反映させたものではない。
3. 図書館の自由など、運営については触れられていない。
4. 2003年から公立図書館をめぐる環境が変わっている。
5. 図書館に対する市民の要望も多様化してきている。

そこで、自治体の環境も大変厳しいものがあるので、図書館としてもサービスの充実に努めなければならない。今後の図書館運営の指針となる運営理念を諮問したいということです。現在の「サービス理念と目標」については、図書館ホームページに掲載しています。

- (1) 市民生活と街づくりに役立つ図書館
- (2) 市民とともに成長する図書館
- (3) 市民に信頼され支持される図書館

サービス理念がもっとあるのでは、というところに議論の余地があります。

町田市立図書館の目標については、10項目挙がっています。

- (1) 市民生活をより深く豊かなものとする。
- (2) 市民が現代社会を生き抜く力を獲得する手助けをする。
- (3) 市民が積極的に市政に参加するようにする。
- (4) 生涯学習
- (5) 児童青少年サービス
- (6) 高齢者サービス
- (7) 勤労者、ビジネスサービス
- (8) 障害者サービス
- (9) 市民文化の拠点となる図書館
- (10) 市議会議員や職員対しに政策立案の支援を積極的行い、市政を活性化することに役立つこと。

＜ここで松尾委員長からスケジュール案の提案があった。＞

●スケジュール案

1. 図書館概要を知る
2. 市や教育委員会の基本的な理念を把握する。
3. 図書館活動の実績、評価。図書館利用者調査が利用できる。

これから1年、来年の3月ぐらいまでに関係者のヒアリングなども含めて、論点の整理、どんな理念や目標を掲げるのか整理議論をします。運営理念の柱立て（目次）が出来れば、テンポ早くできるでしょう。場合によっては、小委員会をつくるのか議論して頂きたいと思います。答申案をみなさんに書いて頂いて、集約して更に議論を深めていきます。答申のまとめですが、1回で成案にするのか、あるいは中間のまとめを作成して、一度揉んで成案ともっていくのか。どのような目標を掲げるのか。私としてもどうしたら良いかわかりませんが、できるだけ年度内に、答申にもっていければと考えています。

●資料としては、

1. 町田市の市民憲章を見ておく必要があると思いました。町田市子ども憲章なども。
2. 基本構想計画
3. 町田市の教育目標
4. 町田市の教育プラン
5. 町田の図書館（事業概要）
6. 町田市の図書館評価
7. 図書館利用者調査報告
8. 第二次町田市子ども読書推進計画

●図書館関係資料については、

1. 図書館の自由に関する宣言（日本図書館協会）
2. 図書館職員の倫理綱領（日本図書館協会）
3. 新しい公立図書館の設置及び運営の望ましい基準（文部科学省）
4. 公立図書館の任務と目標（日本図書館協会）
5. これからの図書館像（文部科学省）

●他の自治体の図書館協議会の答申内容も参考になると思います。川崎市では、毎期テーマを決め、答申を出しています。「川崎市立図書館の運営理念と活動目標」を出しています。以上討議の流れをメモのような形で出させて頂きました。一枚目の表の諮問事項や諮問の理由、図書館のHPについてはいいのですが、問題はスケジュールですね。ご意見を頂きたいと思います。

勘解由小路委員：最初の「図書館の現状」というのは、町田の図書館の現状ですか。

松尾委員長：町田の図書館です。

勘解由小路委員：他の区市町村立の図書館との比較や状況を検討はしないのですか。

松尾委員長：比較検討の資料や素材にはなると思います。

勘解由小路委員：井戸の中の蛙になってもしかたありません。町田ではずっとこうだった、図書館とはこういうものだという固定観念が一番怖いです。

松尾委員長：町田市がライバルと考えるのは、藤沢市ですか。

図書館長：2008年の実績ですと、同規模ですと大阪府の枚方市の図書館で、2番目が町田でした。

勘解由小路委員：京王線沿線7市と提携していますが、その中でも他市では出来ていて、町田市では出来ていないサービスもあるかと思えます。そういったことを確認することも、情報収集としては、必要だと思います。ここには書かれていませんが、「地域の情報ハブとしての図書館、課題解決型の図書館を目指して」という答申も出ています。図書館がこういうものだとして固定観念を持たずに、可能性も十分検討して頂きたい。

松尾委員長：文部科学省で最近やっているのが、「図書館海援隊」ですね。全国の先進的な15図書館がやっています。資料は集めると、膨大な量になってしまいます。今日、図書館関係資料で紹介したものは、HPで見られるものです。

図書館長：図書館協議会は、年間10回設定出来ます。全体の割振りができれば都合が良いのですが。

松尾委員長：今はむずかしいので、次回ご提案したい。ご意見を頂ければありがたいです。

図書館長：次回に、町田の図書館の概要と現状をお話しすることが必要なら準備をいたします。

松尾委員長：今回は、具体的なスケジュール案を提示します。

図書館長：今回は、図書館の現状について報告いたします。いま事務局の方で、他の自治体の図書館資料をインターネットで集めています。

勘解由小路委員：資料には、出された年度をつけていただければと思います。また、資料を各委員に配布するだけでなくHPで見られるものは、それで見てもらえばいいと思います。

図書館長：HPで見られる資料の一覧表を作成します。館内会議で、諮問について職員に話をしますが、何らかの形で職員の意見を反映させたいと考えています。

勘解由小路委員：前に、ヤングアダルトの担当者が来て、説明をされたことがあったのですが、大変良かったと思います。

山口洋委員：図書館としてのサービスの理念と目標ですが、今回の答申では、抽象的な形に止めるのか、それをもっと踏み込んだ形にするのか考える必要があります。先ほど目標の方を、第1項目から10項目まで説明されていましたが、例えば市政情報の援助ということであれば、具体的にどう改善していくのか、そういうところまで踏み込んだ答申にするのか、具体的な目標を立てるのか、それとも現場が考えるから我々はそこまで踏み込まないのか。子ども読書推進計画の取組みシー

トの様なものを作成するのか？これまでやるとなると1年ではちょっと無理かなと思います。しかし、ある程度必要なものを明示していく、大きい目標に対してより具体的な目標、段階を示すことも大切だと思います。例えば、市政情報の援助といえば、市政情報を提供する組織は庁内にありますが、これでは遅れていると思います。日野市が市政情報図書室を作ってよく使われている。こういうものを町田も作ろうとか。そういうことを含めて、具体的に踏み込んだことを考えたほうが良いのか。そういうポイントがはっきりしていれば、他の市区町村の図書館の事例情報収集する時に効率よく出来ると思います。論点洗出しまでの間に、そういう細かい作業が付随するのかなとイメージしています。

松尾委員長：どこまで踏み込むかという点については、皆さんと議論していきたいと思います。

久保委員：館長から概要と現状を提起して頂いて、井戸の中の蛙にならないよう全体の図書館の状況や運営を踏まえていけば、重点項目もおのずと見えてくると思います。

山口洋委員：提案になりますが、次回の協議会までに目を通しておきたい資料等があれば事前にメールを利用して連絡して頂ければと思います。その方がこの2時間半を有効に使えると思います。

事務局：委員全員のメールアドレスを教えてください、事務局からも、委員同志からも連絡が可能とします。

松尾委員長：次回の会議では、町田市図書館の現状と課題。館長から資料を出して頂き説明を受けます。スケジュール案についても、館長と相談しながら提示します。議題の最後になりますが、その他は何かございますか。

山口洋委員：生涯学習コーディネーター養成講座に行っていました。2月20日から3月20日まで、全10回ありました。初めに生涯学習コーディネーターについて桜美林大学の瀬沼教授から全体的な講演があり、後は具体的に生涯学習講座を実施するための企画運営方法、グループ活動の活性化、市民による情報提供・広報の仕方、具体的にどうやるかなど、実習中心の講座でした。参加者は30人ですが、公募の市民の方が非常に多く、年齢構成は、60代の方が多かったようです。何かやりたい、地域で活動したいと思う市民が多いことが分かりましたが、この講座も含めて、それをどこでやれるのかが問題です。町田市の場合、公民館は1館しかありません。また図書館も個人の生涯学習の場ですが、その活用ということはまったく視点に入っていませんでした。こういう講座に需要があるのだから、そこに図書館ももっと活用して頂く方法はないのかなと感じました。以上、報告終わります。

久保委員：子ども読書推進窓口の設置が2010年度中にあり、期待しています。ボランティアのサポートとコーディネーター的業務になると、大変だと思いますが、よろしくをお願いします。

松尾委員長：本日はありがとうございました。次回は、4月20日（火）の午前です。